

山上の垂訓 マタイ5章～7章

序論・本論・結論 の3部構成

序論：「～は幸いです」、八福の教え

結論：二つのものを3組（道・木・家の土台）対比

テーマ：「**真の義**」対 パリサイ派の「にせの義」

中心箇所：マタイ5：20

1

1

中心箇所 マタイ5章20節

あなたがたの**義**が、律法学者やパリサイ人の義にまさっていないければ、あなたがたは決して**天の御国**に入れません。

天の御国

将来、この地上に建てられる神の国

義

神の基準に照らして正しい状態

→義人であることが神の国に入る資格

2

2

律法学者やパリサイ人の義

- ▶イスラエル民族は、モーセの律法を持つ特別な民
- ▶イスラエル民族は、全員が御国に入ることができる
- ▶律法学者やユダヤ教パリサイ派が作った規則に従っていれば、律法を守ったことになる

これでは天の御国に入れない

律法学者やパリサイ人の義は、**にせの義**

3

3

どれだけ、まさっていないかならなければならぬか

あなたがたの義が、**律法学者やパリサイ人の義にまさっていないければ、あなたがたは決して天の御国に入れません。**

**あなたがたの天の父が完全であるように、
完全でありなさい。（5：48）**

人の行いや性格によって到達できるレベルではない
信仰によって神から真の義を受けなさいという勧め

4

4

「山上の垂訓」のアウトライン

場面設定（どこで、だれに語られたか）

- 序論
- 本論（理論と実践）
- 結論

群衆の反応（話を聴いて人々は、どうしたか）

5

5

序論

八福の教えは、義を得る条件では、ない

マタイ5：3 前半 心の貧しい者は幸いです。

後半 天の御国はその人たちのものだからです。

前半を義を得る条件、後半を義を得た結果と読んでしまうと

心の貧しい人になりましょう。

そうすれば、天の御国に入ることができます。

×

6

6

「心の貧しい」とは 真の義を受けた人に、その後で現れる特徴

人の行いや性格によって、義に到達することはできない

真の義は、神の恵みにより、信仰を通して受け取る

幸いです = 神を信じて義を受けているから、幸いである

心の貧しい = 義を受けた人に、その後で現れる特徴のひとつ

義を受けた人は「心の貧しい」という特徴を示すようになる

義を受けた人には、天の御国が約束されている

7

7

本論は、理論と実践

理論編：律法はこう解釈する
人の行いでは、義に到達不可能

完全でありなさい
信仰によって
真の義を受けよ



実践編：

信仰により真の義を受けた人は、こう実践する

8

8

モーセの律法と 私たちは関係あるのか？

モーセの律法を与えたのは、モーセではなく神
 イエスは、神が人となられたお方
 イエスによる律法解説は、制定者による権威ある解説

イエスの解説は、今の私たちにも関係する
何が神の基準に照らして正しいといえるのか、義とは何か
神の国に入ることができるかどうか、究極の問題である

9

9

実践編

こうしたら義人になれる、では ない

信仰によって真の義を受けた人（義と認められた人）は、
 どのように行動し実践しようとするのか

施し・献金・寄付

祈り

断食

いずれも、**人に見せるためにするものではない**

10

10

実践編 習慣的な6つの分野では・・・

- ◆宝を蓄えるのはやめなさい
- ◆心配するのをやめなさい
- ◆パリサイ派の作った規則で人をさばいてはいけない
- ◆イエスを拒否するパリサイ派に対する対応は・・・
- 祈りの生活 求め続けなさい
- 人間関係 人からしてもらいたいことを、人にしなさい

11

11

結論 二つのもの3組 私たちへの適用

- ◆二つの道 いのちに至る細い道、見出す人はわずか
数が少ないことは問題ではない
- ◆二つの木 良い木は良い実を結ぶ
議論やさばき合いは無用、実が証明する
- ◆二つの建て方 岩はメシアの象徴、岩の上に私たちの家
(教会・信者の集まり)を建てよう
大患難期の前に、天に携挙される日が来る

12

12